

プロジェクト名(タイトル):

分子構造の回帰分析に基づく触媒の最適形状探索

利用者氏名:

○山口 滋

理研における所属研究室名:

環境資源科学研究センター バイオ高分子研究チーム

1. 本課題の研究の背景、目的、関係するプロジェクトとの関係

データ駆動型不斉触媒設計法の開発に取り組んでいる。本課題では、不斉触媒反応における生成物の鏡像異性体比と不斉触媒の3次元構造情報とを機械学習手法を用いて相関付けし、不斉収率にとって重要な構造情報を抽出・可視化し、その情報をもとに触媒設計を行うことを目的としている。不斉触媒を3次元構造情報に変換するために、触媒構造の構造最適化を行った。

回帰分析のために触媒活性値(立体選択性)を目的変数として用いているが、実験値のみではなく、遷移状態計算による目的変数の算出も行った。さらに遷移状態計算と可視化した重要構造情報と照らしあわせることによる反応機構解明も行なった。

2. 具体的な利用内容、計算方法

触媒構造最適化、反応の遷移状態計算には Gaussian16 を用いた。密度汎関数法を用い各種汎関数および基底関数を検討した。

3. 結果

最適化した不斉触媒構造を用いて、機械学習のための記述子を計算した。計算した記述子から汎化能の良い不斉収率予測モデルを構築しつつ、可視化した重要構造情報をもとに分子設計にも成功している。とくに。本年度は、パラジウム触媒およびロジウム触媒による不斉触媒反応の解析を行い、反応機構の解明および触媒設計に成功している。

4. まとめ

計算化学的手法が不斉触媒反応のデータ解析に大いに役立っている。研究推進上、Hokusai スーパーコンピュータシステムは不可欠となっている。

5. 今後の計画・展望

引き続き、不斉触媒のデータ駆動型設計法の開発および応用に取り組む